

平成28年度第2回筑紫野市総合教育会議

○日 時

平成28年8月25日（木）午後1時25分から午後3時37分

○場 所

筑紫野市歴史博物館 2階 研修室

○出席委員（6名）

市長	藤田 陽三	教育委員長	近本 明
教育委員	潮見 眞千子	教育委員	田代 邦夫
教育委員	西村 幸子	教育長	上野 二三夫

○欠席委員（0名）

○出席説明員（7名）

教育部長	熊手 寛明	教育政策課長	森 敬
学校教育課長	横山 美津子	学校給食課長	砥上 章
生涯学習課長	長澤 龍彦	文化情報発信課長	奥村 俊久
健康福祉部長	楢木 孝一		

○議事日程

1. 開会のあいさつ
 - ・市長あいさつ
 - ・教育委員長あいさつ
2. 協議事項
 - (1) 講話 「温故知新」
 - (2) 協議
 - ① 講話を受けての感想・考え

会議録

○教育政策課長：それでは、平成28年度第2回筑紫野市総合教育会議を開会いたします。本日の会議につきましては54名の傍聴者がっております。まず、開会の御挨拶を藤田市長よりお願いいたします。

日程1、開会のあいさつ

・市長あいさつ

○市長：皆さん、こんにちは。御紹介いただきました市長の藤田でございます。今日は筑紫野市の総合教育会議を御案内申し上げましたところ、こんなにたくさんの方に御出席いただく中で開催できますことを厚く御礼を申し上げます。また、教育委員の皆さん方には、大変御多用の中で御出席を賜りましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

これまでの総合教育会議では、筑紫野市教育施策の大綱やコミュニティ・スクールの推進などをテーマにしまして、いじめや不登校について継続的なテーマとするなど、筑紫野市の教育に関するさまざまな問題について、協議あるいは調整を行いました。

本日は、長年本市の教育を牽引してこられました近本教育委員長から、御自身の経験をもとに講話をしていただく機会を持つことができました。

この講話を聞かせていただいた後に、感想や考えなどについて意見交換をしながら、今後の教育向上に向けての協議をお願いしたいと思っているところでございます。

本日も皆様方の御協力により、実のある会議となることをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

○教育政策課長：ありがとうございました。

続きまして、近本教育委員長のほうから御挨拶をいただきたいと思えます。

・教育委員長あいさつ

○教育委員長：こんにちは。近本です。このような座でいろいろなこととお話しさせていただくことは、筑紫野市にお世話になっていたからこそできると思えます。この筑紫野市で多くの課題を見つけることができました。また、多くの課題解決の背景には、市民、先生方、いろいろな人からの支えがあります。100%ではないですけど、不十分ながら取り組むことができたのは、筑紫野市だからこそできたと思えます。筑紫野市の自由な雰囲気というのがあるわけです。それがあから、いろいろな課題に気づくことができたと思っております。今日は問題提起のようにもなりますが、これが今後の筑紫野市の教育に寄与できれば幸いだと思っております。そして、私は筑後弁、大牟田弁、柳川弁、朝倉弁、甘木弁、筑紫地区の言葉、少しかじって福岡のほうの言

葉が入りまじって話すことがあります。「同窓会、肩書抜きで、俺おまえ」という川柳を見たこともありますので、こういうことで今日は御了承願いたいと思います。よろしくお願いします。

日程2. 協議・調整事項

(1) 講話 「温故知新」

○教育政策課長：ありがとうございます。それでは、本日の議題であります協議事項に移りたいと思います。

本来なら、この総合教育会議につきましては、主催しております市長が議長となりまして協議・調整事項について進めてまいるところですが、本日は近本委員長の講話を聞いていただきまして、皆さんから感想、意見、質問などを頂戴しながら、教育委員の皆さんの意見交換の場としたいと考えております。この会議につきましては、開会に引き続き、私が全体の進行をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、近本委員長から、レジュメにあります講話といたしまして、「温故知新」というテーマでお話をいただきたいと思っております。近本先生、よろしくお願いいたします。

○教育委員長：では、始めさせていただきます。（ノートを取り出す。）

これは「温故知新」、「相談」とも書いております。市内外から、子ども、保護者、大人など、いろいろなところから私のところへ相談が来ております。相談があったことや、後からのお礼とか、いろいろなことを閉じたノートが3冊ありますが、そのうちの1冊を持っています。それで、何かあるときはこれを広げて、昔を思い出すことがあります。それで、「古きを温ねて新しきを知る」ということで、いろいろな課題解決においてこれを見るたびに参考になっています。そういうことで、今日はこの中の一部を取り上げながら話をさせていただきたいと思っております。

まず、皆さん方、先生方も多いですが、専門書を読むことは大事だと思います。例えば、教師向けの専門書、いじめ解決についての専門書、障害児教育についての専門書、これらを読むことは非常に大事と思いますが、読んでわかったことは、頭でわかっているだけです。わかったら、その中にどういう課題があるかを考えないといけません。そして、課題や、その課題を解決するためにはどうしたらいいか自分で考えて結論を出す。出しただけではいけませんので、行動に移さないといけません。そして、行動に移すと、また新しいことを知るわけです。そしてまた、考えて分析して行動に移す、これが普通だろうと思っております。

ところが、私は反対で、行動が先でした。行動しながら、新しく知るわけです。そして、考えて分析して結論を出す。失敗もたくさんしますが、今までの教員生活で行動に移すことを大事にしてきました。

私は、同和教育を基本にしておりました。同和教育は、全ての人権教育の原点であると捉えて

います。同和教育が原点で、人権教育。それで、同和教育の初めは部落差別から始まり、ずっと年代を経て、人権教育推進法などがいろいろ出ました。今度は東京オリンピックがあります。東京オリンピックとパラリンピックでの人権の関係はどうか、それを想定しておかないといけません。そういうことで、同和教育の精神、理念というのを頭に置きながら考えて取り組んできました。

今日は、先生方、校長先生方もおられますが、先生方の学校の課題は何ですか。私は、障害児差別解消法が4月から実施されましたので、今の課題は、これを勉強しないといけないと思います。ところが、学校だけではどうしても解決が難しいことが起こりますし、どの学校に起こるかわかりませんので、コミュニティ・スクールの運営委員をどう動かしていくか、どう動いてもらうかということで進めてもらいたいと思っています。

レジュメに入りますが、私は筑山中にお世話になりました。先生方、皆さん、教育の正常化というのは、どういう状況を想定されますか。教育の正常化というのは、どういう状況を正常化なのか、定義があるかという定義はありません。私が捉えているのは、正常は、正しいと常がありますので普通の状態。では、学校の普通の状態とは何かというと、時間割があって、それに基づいて学習指導がされているような状況です。だから、正常化とは時間割どおりやること、時間を守ること、それが正常化です。

ただ、それだけが学校の正常化かという、もう一つあると思います。校務分掌組織というのがあります。校長をトップに仕事を分けて、それを組織図にしています。仕事が機能するだけではなく縦横の関係がお互いに交流することができる。校務分掌が機能するだけでなく、校務分掌組織として機能する、これがもう一つの正常化です。

正常化があるなら、今度は活性化しないといけません。活性化は、そうですね、さいころを想像してください。さいころは縦、横、高さが同じです。だから、正常化をこれに当てはめると、底辺の片一方が校時を守る、もう片一方が時間を守るということ。縦、横の辺が校務分掌の組織化・機能化、そして、底面の上に立つのが活性化。その三つがそろって活性化です。具体的には、職員の研修と研究が盛んに行われているのが活性化。だから、正常化と活性化をさいころで考えて、バランスがちゃんととれていることが、学校の活性化、正常化であると思います。

では、筑紫野市でどういう児童・生徒を育てるかという、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てるのが目当てです。バランスのとれた子どもを育てるためには、育てる学校のバランスがとれていないといけません。縦、横、高さのバランスがどこか一つだけ伸びていたら、バランスがとれないから妙なふうになります。片一方だけよくても、バランスがとれません。やはり知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てるという考えに立って、今後、コミュニティ・スクールを考えると、頭の片隅に置いてほしいと思っています。

私は筑山中にいましたが、中学校の免許は持っていません。小学校の免許しか持ちませんが中学校に行きました。なぜかという、正常化するためです。仕事を頼まれたら、今まであんまり嫌とは言っていません。どこでも言われたところに行く、力はないけれども、気持ちだけはそういう気持ちで行きました。

それで、筑山中に行きましたが、ここは少しではなく、いっぱい荒れていました。荒れていた中身は詳しくは言いませんが、荒れるということは、どういう状況か想定してみればわかると思います。例えば、廊下をバイクや自転車が走っていたり、授業が成立しておらず、先生がきつから頻りに年休をとるような状況でした。ガラスが窓にはまってなかったり、割れているままだなっているところがありました。そういう状況を直すために私は行きました。

ところが、教育というのは実態を知らないといけないわけです。では、実態把握をどうするかという、レジュメにも書いてありますが、一つ一つ解決するのではなく、総合的に考えて、まず実態把握をしながら、子どもをどう捉えていくか。悪いと言われている子ども、学校は、逆に考えればよくなるということです。よくなると発想を転換する。これが大事です。悪いところばかり捉えていたら、やる気がなくなりますので、子どもたちは必ずよくなると考えます。そうすると、子どもを見る目が楽しくなると思います。そういう思いで取り組んできました。

子どもの実態は毎日変化しています。その日に捉えた実態が、1週間も2週間も先まで同じではありません。それを見るためには、一人一人の様子を、顔色が変わっているとか、言葉に元気がないとか、そういう目で見ていくことです。捉え方はいろいろあると思いますが、私が担任をしていたときは、朝、学校で教室に入ってくるときの挨拶を聞いていると、声でわかるわけです。そして、何となく声をかけながら確かめていく。そして、子どもがこれを出したら、それに必ずコメントを入れるということです。だんだん子どもと通じるようになったら、おもしろいものが出てきますよ。家庭のことまでちゃんと知らせるようになります。

10月16日金曜日。夜、お父さんが着がえをしていました。僕はびんときました。お父さんは、こんなときに絶対に中洲に飲みに行くのです。前は月に2回くらいしか行っていなかったのに、今では週に2回も行ってきます。おかげでお母さんは内職しています。呼び出されて情けないというか何というか、言葉がありません。でも2時くらいには帰ってきます。夜中の2時くらいにはちゃんと帰ってきて、次の日はきちんと仕事に行くのだから、お父さんはとてもタフだと思います。

こういうのに担任がどうコメントするかです。やり方によっては、この家庭を破壊します。うそでもいいから、夜中の2時ぐらに帰ってくるお父さんはすごいね、よかったねという、子どもが親を尊敬するほうに向きます。家庭のことまで、いろいろなことを話してきます。これが信頼関係だと思います。これは1年間続けられないとできないことです。それから、これは同じ子が

11月6日に書いています。

今日、お姉ちゃんの中学校で、問題が起きていることを聞きました。というのは、お姉ちゃんのクラスにAさんという人がいて、その人は、遊んでいてちょっとどんぐりが当たったとか水がかかったとかで、泣いて家に帰っているそうです。先生が頭をぽんとたたいたら、暴力をふるったとあって、そのおばちゃんが毎日のように学校にどなり込んでくるそうです。おかげで勉強が進まないそうです。そこで、お姉ちゃんたちは担任の先生と話し合いをしているけど、いい結論が出ないそうです。だから、お姉ちゃんが、どんなにしたらいいか近本先生に聞いておくれと。

これを見ると、家庭で親子の会話、兄弟の会話ができる家庭であるということがわかります。そして、いろいろなことを担任に知らせてくれる、ありがたいことです。こういうことで心の実態把握ができるわけです。

それから、職場はどこも同じだと思いますが、先輩や上司から指摘されることもあります。そのとき、恨むような考え方もあると思いますが、そのところも発想を転換して、自分の気がつかないところを指摘してもらっているというように発想を転換します。なかなか難しいと思いますが、そう思えるようになったら、職場でも能力が一步前進したと捉えていいと思います。それは仕事の効率にかかってくると思っています。

それから、自由させてもらうことは気分的にいいですが、自由にさせてもらうということは、裏を返せば、自己責任が非常に重いということです。仕事は言われたとおりしたほうが一番無難で楽ですが、それでは進歩しませんので、チャレンジしていくように支援していくということが大事ではないでしょうか。

次に、私は筑山校区の人々から学ばせてもらったことがたくさんあります。筑山中学校の校長として行ったからこそ学ぶことができました。その当時、筑紫野市人権啓発実行委員の会長をしていた区長会長がいました。ところが、中学生のいじめがあったときに、この区長が先頭に立って、いじめは許されないということで、いじめる側は何人もいて、行政区も違いますので、行政区長たちも一緒に集めて、呼びかけてもらい、そういう手立てをとりながら解決しました。

ほかにも、大石議員とはPTA会長、副会長で一緒でしたが、校門に毎日朝7時から立っていると、一緒に校門に立とうという話はしていなくても毎日来られて、そこでいろいろ話をすることで、会長、副会長、校長で話ができます。その話を運営委員会に出すことで、時間の無駄がなくなり、非常に助けてもらいました。

それから、生徒会の力というのは保護者や教員よりももっと力が出ることがあります。波多江議員が中学校のとき生徒会で中心になってくれました。不登校の友達を呼び出して連れてきてくれたり、よくしてもらい、いっぱい学ぶところがありました。

それから、原口議員はPTAの会長をしていましたが、生徒の指導に物すごく貢献してもらい、

今の青少年指導連絡会というのを彼が発案して、3年目になります。それで、いろいろな商店や警察、民生委員、補導委員、指導委員、教育委員会など、あちこちから集まってもらい、子どもの状況など話をします。これが役に立って、今、非行が少ないわけです。これはありがたいことで、こういう人たちが、筑紫野市にはいっぱいいらっしゃいます。これを結集するコミュニティにならないといけない。そういうことを学びました。

それで、いろいろなことを学びながら、これだけは押さえないといけないと考えていることがあります。それは、「法」法律に沿っているのか、「理」理屈に沿っているのか、もう一つは、「情」情けです。法・理・情、この三つに沿っているかです。

人間というのは、十人十色でみんな違います。相手の言うことに「聴く耳」を持たないといけません。「聴く」というのは、耳へんに十と四と心を書きます。大きな耳で14の心を持って、人の言うことをよく聴く、これが大事です。それは、子どもの声、教師仲間の声、管理職の声、全ての人たちの声をよく聴くということです。今から先、保護者ともいろいろなことで食い違うことがあると思いますので、今からは、意図的に、人の言うことはお互いによく聴くような啓発を学校現場でしていくことが大事です。それが浸透して人の話を聴くようになると、解決策が生まれたり、自分が気づかないことがわかることもあると思います。今は、保護者全てとは言いませんが、聴く耳を持たない人もいますので、コミュニティ・スクールもそういう方向で持ってほしいと思っています。

コミュニティ・スクールの学校運営協議会は法的に位置づけられています。学校運営委員は、校長の求めによらずとも意見を述べるができる権限があります。それに、学校の課題をコミュニティ・スクールで解決していくこともできます。何か課題があればコミュニティ・スクールで議論して、校長が直接言わなくても、コミュニティ・スクールという公的な機関の代表が言うことができる権限が与えられています。

それから、生徒の実態は、日記や顔つきでもわかります。いじめも、筆圧でわかります。いじめられていると、筆圧が弱くなります。そういうことで毎日ノートを見ていれば、大体わかります。何か感じたら、こっそり子どもを呼んで、「言え」ではなく、「よかったら教えてくれ」というと、心を開いてきます。それから、校長室の扉はあけっ放しにしました。当時、筑山中は25学級あって、筑紫区では2校目に生徒数が多いところでした。いろいろ正常ではなかった様子なので、必ずいじめや暴力があります。それで、駆け込み寺として、何かあるときは校長室に入れるように、鍵をかけませんでした。しかし、周りから見ると荒れているようだけれども、中身はすごいものを持っていて、子どもから教えられることが多かったです。

それから、保護者との連携ですが、学校、地域、家庭で子どもを育て、学校を育てていくということになったら、話が食い違うことが出てくるかもしれません。そのときに、一番の責任者は

誰かということを引きつ押しさえて、責任者が決定したら、それに従うことが大事です。美咲というところがありますが、年配の人たちが意見をどんどん言うけれども、そこで決まったことは、その人たちが率先してやっていく。だからあれだけの住改良事業ができています。決定したことは、トップを中心に徹底して実践に移していく。そのような地域です。

それから、三悪といえば喫煙、シンナー、暴力ですが、喫煙を抑えるために先生たちもよく努力してくれたと思います。筑山中学校の先生たちがいたので私は育てられたと思っています。たばこの火がついたまま廊下にほったらかしにしていたので、バケツを灰皿のかわりにとと言うわけにはいかないの、黙ってバケツを置いておけばそこに捨てるようになりました。

それから、今はもうシンナーの時代ではなくドラッグの時代になってきていますが、シンナーもなんとかしないといけないと思いましたが、シンナーの原因は、大抵はよそから入って来ていました。それで、学校では手におえないこともありますので、そういうときは、早く警察と連絡をとることで。

それから、暴力はしょっちゅうあっていました。ストレスがたまると、日ごろは真面目な子や優秀な子どもが窓を破ったりしていました。そういう時は、その子と仲よしの子に、ついてもらい、その子を見てあげるわけです。それは友達しかできないことで、教師ではできないことです。教師がその子だけについていると、ほかの子の目もあるので、子どもが子どもを支えて、教師は遠くから見ている。そういう取り組みもありました。

小中連携の取り組みですが、学力向上研究指定校区事業というのを筑山中で始めました。このとき、教育事務所が一つできたのですが、筑山中が一番初めですから、あとの教育事務所からも一人ずつ候補者が上がりました。手探りの状況でしたが、いろいろ勉強会をして出たのが自尊感情 (Self-esteem) です。学力を向上させるためには、自尊感情を高めるということが大事ということを出して、それを整理した報告書を全県下の小中高に配りました。それから、筑山中の三校交流をしました。廃品を集めて、筑山中に持っていき、値札をつけるわけです。そして、みんなで値札をつけるときに、いろいろな話をして、それが交流になりました。こういうところばかり言って、悪い学校だったと広めてもらったらいけません。こういうことだけでも、教育によってはよくなります。それをやるのがコミュニティです。いいところばかり出しても進みません。それなら、恥は恥として、過去の恥だから、そういう古きものに触りながら、また新しきものをつくり上げていけばいい。これが温故知新です。

それから、いじめについての取り組みですが、これは私がかかわっている筑紫野市の取り組みです。話したことがあると思いますが、中学校に入ってすぐいじめられて、学校に行かなくなった子がいましたが、勉強はしていました。自分で調べて、高校はヨーロッパに行き、卒業して、また大学に行くというときに、最終学校の成績証明書が欲しいと相談がありました。しかし、外

国の形式だから外国語で書かないといけませんが、私は書けませんでしたから、他の先生に頼みました。そういう人材もネットワークで持っておくと助かります。いつ誰に助けをもらうことがあるかもしれません。1人だけでは何もできないということです。しかし、1人が動けばいろいろなことができると思います。動くためには、過去もめぐりながらやっていくということも大事ではないでしょうか。時間になりましたので、これで終わりたいと思います。御清聴ありがとうございました。

○教育政策課長：ありがとうございました。なお、藤田市長につきましては、この後、別の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。よろしくお願いたします。

○市長：司会者から御案内がありましたとおり、所用で先に出させていただきます。近本教育委員長には、非常に貴重な御講話をいただき、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。皆さんの「相談」という、温故知新を語る本は、まだ1冊目でございます。あと2冊分は、この次か、その次です。私は総合会議の責任者として、またこういう機会をつくりたいと思います。本日御参加いただいた校長先生初め、市議会の皆さん方も、またの機会にぜひ御参加をお願いし、今後ともこの総合教育会議を通じて、いじめや不登校、あるいは健全な子どもたちが育つ教育行政を整えていく筑紫野になりたいと思っております。どうぞ御協力をお願い申し上げ、早退するお許しをいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

[市長退室]

(2) 協議

① 講話を受けての感想・考え

○教育政策課長：近本委員長からお話をいただきましたけれども、教育委員の皆さんで意見交換をしていただければと思います。近本委員長に対する質問ですとか、もう少し詳しく聞きたいところがありましたらお願いいたします。

○潮見教育委員：近本委員長、今日はありがとうございました。改めて、近本マジックといえますか、子どもだけでなく、保護者や地域の方の心をつかむ言葉の使い方、そこがすごいと思いました。なかなか身につけられるものではないですが、できたら身につけたいと思います。

それと、昔ならではといえますか、筑紫小学校、筑山中学校の校長先生をされたということで、社会の変化はあるかとは思いますが、あの当時にたくさんの人とかかわられて、元祖コミュニティ・スクールのような取り組みをされていたということに、深く感心というか、感激いたしました。今の先生たちが取り組めることといえますか、どうして今それが難しくなっているのか、委員長はどのようにお考えになりますか。

○教育委員長：今の先生たちはかわいそうだと思います。昔は酒飲みが一つの研修でした。先輩や同僚、それから保護者からもいろいろな情報が入ります。先輩は経験豊富なので、いろいろな

話をざっくばらんに聞かせてもらうのが酒飲みでした。ところが、時代の変化もありますが、子どもから仲間、空間、時間を取り上げてしまっています。今はクラブに入っている人が学校のグラウンドや体育館を使っていますので、クラブに入っていない人は使われません。教育委員会でも、その辺の子どもの状況を考えないといけないと思います。

今は小さなことにこだわりすぎるようになったと思います。そこで、今、歯止めとして学校運営協議会が学校の課題を解決すべきだと思います。今の先生たちは非常に忙しいので、先生たちの負担を減らすためには、コミュニティ・スクールを充実させて、先生たちが子どもに関わる時間を増やす必要があると思います。先生たちが安心して学校のことに取り組むためにはコミュニティ・スクールしかないということ、市長とも話しました。各学校のコミュニティ・スクールでの話を出してもらいながら、教育委員会で議論をしていくような筋道になると思いますが、教育委員会だけではできませんので、皆さんの協力が必要だと思います。

○田代教育委員：温故知新というテーマで話をされましたが、比べて言われる言葉に不易流行という言葉がございます。先生のお話を聞いて、子どもたちを育てることに変わらないものがあると感じました。子どもを叱るときは一人のときに、褒めるときはみんなの前でというところは、いつの世も変わらないと思いますが、社会情勢や時代背景などは大きく変わったと思います。インターネットを使ったツールなどが増えていますが、見えにくく指導もできないことから、深刻な被害を与えています。先日の同和問題の研修でもありましたが、初めて聞く方も多かったと思います。これから先、若い先生方はどのように対応していけばいいと思いますか。

○教育委員長：若い先生たちに育ってもらうためには、新しい発想を大切に、やらせる事が大事だと思います。失敗せずに成長はありませんので、失敗よりも挑戦する姿勢を大事にして、思いついたら実行してみることが大切だと思います。オリンピックやパラリンピックも、これからは人権に配慮して優勝や成績よりも、スポーツマンシップやフェアプレイなどを問われるようになると思います。水泳指導をしているときに、自由に泳がせると子どもたちの顔がいきいきして、子供同士で工夫をしながら成長した経験があります。自由にやらせることが個人の持ち味を引き出し、伸ばしていくと思いますので、若い先生には挑戦させる取り組みが必要だと思います。

○西村教育委員：中学校に入る前の保護者から、実態を良く知らないのに、中学校の悪い噂を聞くことがありますが、中学校に入って実態を見ると、先生の頑張る姿を見て見方が変わり、良い面が見えてくると思うのですが、近本先生なりの保護者の心をつかむコツを聞きたいと思います。

○教育委員長：人の心をつかむのはとても難しいですが、相手が寄り添ってくれるかどうかだと思います。人間は不完全な者同士なので、相手を認め合うことが大切です。相手のいいところを見つけられる感性を育てる必要があると思います。学級の指導や経営や教科でもいろいろあると

と思いますが、学校訪問などで、細かい配慮が感じられる時があります。計画するときは細かく、やるときは大胆にすることが大事だと思います。原田小学校に行くと先生たちがいきいきして、校長の経営が隅々までいき渡っており、学校のベランダや屋上まで子どもたちがきっちり掃除をしていますので、参考にしてほしいと思います。褒めるときには、いいところを具体的に褒めたほうがいいと思います。相手によって受け取り方が違うときもありますので、かみ合わないときもあります。先生は子どものために一生懸命していても、親は逆に受け取ることもあります。それを調整してくれるのがコミュニティ・スクールです。先生たちの負担を減らすために文書などでも簡単にして、先生たちの仕事を削ることは、子どもに関わる時間を増やすことにつながると思いますので、ぜひしていただきたいと思います。

○教育政策課長：本日お見えになっています小中学校からも、質問があれば挙手をしていただければと思います。市長からも第二弾、第三弾があると話がありましたので、また機会がありましたら、ぜひご意見などをいただければと思います。それでは、最後に上野教育長から、謝辞あるいは、まとめをお願いしたいと思います。

○教育長：代表で謝辞とまとめをさせていただきます。近本委員長、本日は大変ありがとうございました。90分という長い時間でしたけれども、あっという間に終わった気がいたします。まだまだお話足りないところがたくさんおありのようですが、次の機会にお願いいたします。今日は学校関係者、それから議会の方からもきて頂いて、本当にありがとうございます。実体験、実経験をもとに講話をいただきましたけれども、皆さんも、ご自分の体験、経験を重ねながら聞かれたのではないかと思います。私も当時のことを思いながら聞かさせていただきました。私も先ほど、潮見委員が言われましたように、近本マジックがあると強く思いました。人間愛といいますが、本当に子どもは大事な人間だと常に思っているから、リーダーとして、リーダーとなる前から率先して、いいものを見ようという姿勢がまわりを変えていったのではないかと感じました。当時の筑山中学校の先生方、あるいは筑紫小学校の先生方は、先生の一挙手一投足を見ながら学んでいかれたので、今の姿があるのではないかと思います。本当にありがとうございます。最後に、コミュニティ・スクールの意味するところをしっかりと話をいただきました。今は昔と違って、きめ細かい指導をしなければいけない時代になってきました。ですから、何か起こりますと、学校だけでは不十分なところが出てきました。やはりこれからは、校長と対等な関係にある学校運営協議会の機能を活かしてもらいながら即時対応をしてもらい、地域の代表ですから、地域の子ども達は地域で育てる意味からも、学校運営協議会の方たちの力を借りることも充分考えられますし、ぜひこれから活かしていきながら、何か起きたときには、すぐに馳せ参じるところまで高められたらと願っております。長くなりましたけれども、本当にありがとうございました。先生のお話を聞きながら、足りないものを伸ばしていこうと皆さんも思われたと思いますので、そ

れを今日だけにしないで、明日からの生き方、考え方につないでいただきたいと願っております。
以上で、私の謝辞とまとめを終わりたいと思います。本日はありがとうございました。お礼を申し上げます。

○教育政策課長：ありがとうございました。それでは、これをもちまして、平成28年度第2回筑紫野市総合教育会議を閉会いたします。